

会 議 録

1 会議名

令和4年度第1回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的審議事項】

・直江津まちづくり構想について（公開）

3 開催日時

令和4年4月26日（火）午後6時30分から午後8時8分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 多目的ホール

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 青山恭造（副会長）、田中美佳（副会長）、磯田一裕、今川芳夫
河野健一、久保田幸正、坂井芳美、田中 実、田村雅春、古澤悦雄
増田和昭、丸山岳人、水澤敏夫、水島正人（欠席者2名）
- ・企画政策課： 志賀参事、海津係長
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、千田主任

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青山副会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：古澤委員、増田委員に依頼

議題【自主的審議事項】なおえつまちづくり構想について、直江津プライド2021より地域協議会への提言書が提出されているので、代表者である磯田委員に説明を求める。

【磯田委員】

「直江津のグランドデザインを描く事業」は、昨年度、地域活動支援事業を使って行った。その実績の報告書と併せて、直江津まちづくり構想、自主的審議の進め方を含めた提言をしたいと思っている。

簡単に実績報告をすると、事業の概要は提案書に書いている内容とほぼ同じである。提案書を出したときには、新市長が誕生していない状況で「6次総をベースにまちづくりの地域版を作っていきます」という提案になっている。今年度がどのような行政の体制で行くのか、地域独自予算の検討の話も含めて、どのように対応していったらいいのか検討していただければと思う。今回の提案内容は、「自分たちの町のビジョンを住民自ら考えていこう。そして、行政と一緒に計画を作っていきたい」という思いで先行的に行った事業である。ワークショップは5回行い、直江津のウォーターフロントをテーマに市民向けの発表会も併せて行っている。一つの地域、一つのエリアの検討を本気でやろうとすると半年から1年はかかる。これが、マックスの検討ではないので、ここから先にさらに検討していかなければならないことが沢山ある。事務局に誰かについてもったり、行政の専門家についてもったりということをしていかなければ、これを1市民団体や地域協議会が全部担うのは無理である。こういう計画できちんとした整合性のとれたものを作っていく、或いは、市民の意見を聞きながら財政や将来計画、上越市全般の計画の中での位置づけ等を考えていくためには、やはり、市民だけではこの事業はできない。例えば、元気が出る事業へ提案していただいて、行政とともに直江津のまちづくり構想を作っていくという道筋をつけられないものなのかというのが提案の主旨である。そういう意味では、ここに挙がっている案が、非常に魅力的な話も出てきているが、実際はどうなのかとか、本当にそういうことができるのかという検証は今後さらに深めていかなければならないと認識していただきたい。

最後のページに今の話を提言書という形でまとめてある。こういった市民とのやり取り、協議会の中でもこういったワークショップ的なやり取りの中で案をまとめていく、或いは、深掘りしていく。意見交換、課題の抽出だけではなかなか先に進んでいかない。では、その課題をどのように解決していくのかを含めて、将来的なビジョンがどうなっ

ていくのかを含めて検討していく必要があるのではないかと考えている。ビジョンについては、今まで話してきた内容を吟味しているということで理解願いたい。

今日追加した資料の2) 令和4年三月議会及び移動市長室での市長答弁では、私の思い違いの部分もあるかもしれないが、①のとおり、7次総において、地域計画は作らないといった話だった。これは、今年の最新の議会だより「かけはし」に載っているものからピックアップしている。「7次総を作るにあたって、地域計画をいれる考えはあるのか」の問いに対し「その考えはないと回答しているが、自分たちの地域がどうあるべきか議論を展開してもらうことは有り得る」としている。ここが、地域協議会はまちづくりについてどのようにコミットメントしていけばよいのかが、まだ、ぼやっとしている。

②の「しかし、地域で課題の抽出と解決策の検討の上にまちづくり構想を考えてもらえるのはありがたい。」これは、移動市長室で私が市長からお聞きした言葉である。本意はどこにあるかわからないが、こういった検討を地域でやってきて、それを計画なり、行政の政策の中に反映していくことはありがたいというふうにおっしゃっていただいている。

③の「地域の独自予算を地域協議会に検討してもらおう。」これは、先日、まちみらい市民会議設立会の時に来賓として来ていただいて意見交換をしたときに、そう話していた。私は、びっくりしたのだが、独自予算を地域協議会に検討してもらおう。1から10まで作れと言う話では到底ないが、少なくとも地域協議会が予算に少し関わる可能性のようなことを話していた。関わり方は全くわからない。そういう意味では今の段階で、独自予算がどういう予算建てになってくるかわからないので難しいかもしれないが、それを見据えたまちづくり構想をつくっていく任務が地域協議会にはあるというふうに私は理解した。市長はまちづくりを推進する公約プロジェクトとして8つのプロジェクトを掲げている。直江津まちづくり構想を練っていくときに、私の提案では6次総ベースで6次総を直江津に落とし込んだ時にどういうことが必要なのか。そして、土地利用の観点から7つのエリアの中での海岸沿いだったり、エルマール周辺であったり、三八朝市周辺であったり、それぞれのエリアにおいてどんなことが必要でどんな課題がるかという検討をしていく必要があるのではないかと思い、この提案書を作っているが、市長の公約プロジェクトの1つ1つの問題を直江津区でどう解決していくかという検討の仕方もあるかと思っている。これはこの後の皆さんの議論の中で、どのようなやり方がよいのか、どういった検討をしていくべきかを議論していただければありがたいと思っている。

3)の「まちづくり構想を令和4年度の自主的審議でどのように作っていきますか」ということで行政との関わり方、1番、直江津区地域協議会だけではなく行政とともに直江津まちづくり構想を作るために、今年度、地域を元気にするために必要な提案事業で行っていく。もしくは、2番、地域を元気にする事業では制度的に駄目だとか、自主的審議となれば、自主的審議の場にそれぞれ行政部署の職員を派遣したり、北部まちづくりセンターが事務局になって構想をまとめていくというようなことも有り得るのかと思う。地域を元気にする事業での行政のコミットメントがどの程度か明確に書かれていなくて基本的には地域の人がやって、それを行政が支援するみたいな建付けになっている。そういうこともあって、どういう形でやっていくか、どの制度を使うにしろ地域協議会と住民と行政が1つの計画づくりをしていくということが必要なのではないかと思っている。

テーマの設定として、①番がまちづくり構想の作り方として直江津の7つのエリアの各拠点を繋ぐ仕掛けづくりの構想がよいのではないか。これは、今までの提案書の検討の仕方のことを言っている。ただ、今年1年だけで6つのエリア、ウォーターフロントをいれると7つのエリアのことを全部やっというのは、ちょっと難しい。相当なパワーがいる話になってくるので、実質的には、そのうちの最重要課題をいくつか選んでやっていくことになるのかと思っている。それは、今まで引き継いできた、或いは検討してきた直江津区の自主的審議の中で三八朝市をどうするか。なおえつ屋台会館をどうするか。五智歴史の里周辺、五智公園とその周辺をどうしていくのか。それと福島城の話もある。そのあたりをもっと深掘りしていく議論をつくって提案していくことが必要なかと思っている。

そういう形でないとすると、②の市長が掲げる公約プロジェクトの中のいくつかを直江津まちづくり構想として、行政と協力しながら検討していくという枠もある。公約プロジェクトの中では、地域として考えなければいけないこととすれば、通年観光だったり、防災の話だったり、13区と15区の地域自治のあり方がだいぶ違っているので、地域自治推進をどうしていくのか。地域交通あたりかと思っている。一番取り掛かりやすいのは通年観光の話だと思う。どういう切り口でやっていくのがよいのかという議論をぜひしていきたいと思う。

後ろに付けている地域を元気にするために必要な提案事業の資料は、前回、提案書の中にも付けたので割愛させていただく。この後の議論をどのように、或いは、まちづく

り構想をどのように作っていくか、計画していくか、それは、今年度が肝になってくるのではないかと考えているので、その辺を考慮していただきながら意見交換させていただきたい。

【青山副会長】

説明に対し、質疑を求める。

【田中実委員】

2点伺いたい。

1点目、皆さんが作られた提言書を読んだが何処かで読んだような文書だと思った。第6次総合計画を引用されているのか。皆さんは何をやりたいのか。直江津のまちづくり構想というが、これだけの範囲の直江津のまちを各団体が頑張っても、到底無理ではないかと思う。それよりも、取りまとめて1か所なり2か所を重点的にいろいろなイベントをやった方がスムーズではないか。

【磯田委員】

第6次総合計画の話はこちらが提案している計画ではないし、第6次総合計画を我々の活動の成果として出しているわけではない。このようにやっていくという話である。壮大な計画を自分たちだけでとは当然思っていない。なので、行政と共に市民の人たちと一緒にこういったプランなり、構想なりビジョンを描いていこうという提案である。イベントをやるというのは、その時だけ瞬間的に賑わいが出てくるかもしれないが、基本的なまちづくりの問題の解決ではないと私は理解している。それは、根本的な構造がどうなっているのか、問題点がどこにあるのかを理解しないままイベントばかりやっても仕方ないという思いである。それよりは、きちんとした夢なり構想なり、まちをこのように変えていこうという市民の共通認識、このように動いていこうという大雑把であっても、そんなコンセンサスを得ることのほうが重要かなということで、こういう提案をしている。

【田村委員】

私は、もう少し絞ってやったほうがよいと思う。今まで我々が三八朝市、ライオン像のある館、五智公園、福島城の話、それをまずどうやって解決するのか、行政と一緒に解決に向けて、私は三八朝市の私案を持っている。今までと全く違う案である。前回、言おうと思ったが言えなかった。そういうことも含めて、やはり絞ったほうがよいと思う。地域協議会委員の任期があと2年である。市長の発言をみると地域協議会委

員もこれで終わりかもしれない。そういう意味では是非絞って、そこで提案書をきちんとしたものにして市に出す意見書として出せるようなシステム、そういう結論に持っていくべきではないかと思う。

【古澤委員】

市民の声を聞くということだが、どのようにして聞くのか。やはり、組織だってやらないと物事は進まないと思う。組織があつて住民が動くのであつて、ただ、「皆さんどうですか」と言うと町内会を見てもやはり出たがらない。その中で婦人会、青年会等々、その組織の中でやって下さいということになると意見が突然出てくる。ただ、市民に寄り添って、例えば先ほどの話し合いでどうですかということになって、どれくらいの方が集まるのかということになれば、やはり、町内会長協議会や育成会等、教育の場があるのでその辺を働きかけてやっていかないと1つのものにまとまらないのかと思っている。そういった意味で、組織を利用しながら、その中で最大公約数の中でやっていくということである。それで、今、田村委員からも話があつた。三八朝市の立て直しができるのか本当に不安である。組合と三八の組織が3つか4つあるが役員の方は出てこない。その中で行政がどれだけ入っているか。やはり、いろいろな意味で組織を巻き込んでやっていくことによって、その成果が出てくるのかと思う。

私もエルマールに最後のワークショップを聞きに行った。非常に良い意見が出ていた。散歩の道を繋げるという話も出ていたので、ぜひ、やってほしいと思う。全部をやらなくても、これが変わったのかということを見たい。今、水族館の所で遊歩道が止まっている。それを虫生岩戸の所までもっていけば良い散歩道となり、今、水仙も咲いていると新聞に出ていた。そういったものを還元しながら、市民にわかりやすいウォーキングコースを作ることをやることによって活性化されるということで、組織を結集しながら物事を進めたらよいと思う。

【磯田委員】

これからの議論は、いかに直江津区の自主的審議を進めていくか、或いは、まちづくり構想をどうつくっていくかという議論の核心に入ってくると思っているの、そういう方向にいったほうが良いと思う。田村委員の言われることは、市長も代わっており、地域独自予算の話が出たり、地域協議会としてどうあるべきかという話、それから、第7次総合計画の作り方の話になるということで、この提言には、その細かなやり方までこだわってはいない。ただ、いずれにしても市民と行政と既存の組織、ある意味では1

3区にある振興会のような、動かしていく組織のまとまりにならなければいけないということもあるかもしれない。それも含めて、市長の言っている地域自治の推進というところの課題も解決しなくてはいけないかなという気はしている。これを選ぶかどうかは別問題だが、その作り方として、既存の人たちに協力を求めていくという形を地域協議会の中だけではなくて広げていくという必要性は多分にあると思う。

【青山副会長】

この提案については引き続き協議していくこととしたい。

次に、前回の地域協議会で事務局が説明した、なおえつうみまちアートの決算状況等について、委員からの質問や意見への回答を担当課へ求める。

【企画政策課：志賀参事】

・挨拶

3月15日開催の直江津区地域協議会において、なおえつうみまちアートの決算書などを資料として配布した。当日は、市議会3月定例会が開催されていたため、出席・説明できなかつたため、皆さんから承った質問について説明させていただく。

1点目の「アンケートで来場者の住所がどこかと、どのような交通手段を使ってきたかを聞いてほしいと要望したが、その回答がない」とのご意見については、来場者の地域別状況は、記録集12ページに記載のとおりで、コロナ禍もあり75.7%が市内、13.6%が県内、県外は10.7%となっている。来場者の実数は約1万人と捉えており、県外からは長野県から300人、東京都から160人、神奈川県、千葉県、埼玉県からそれぞれ50～70人ほど来場している。なお、交通手段はアンケートの項目として、確認していない。9月以降、無料巡回バスを運行した際に直江津駅からバスを利用する方もいたが、各会場の様子を見るとほとんどの方が自家用車で来場していた。参考として、直江津駅の乗車人数は、前年度（令和2年度）と比較すると、1日平均約30人の増加となっているが、なおえつうみまちアートの効果とは断定することができない。

2点目の「市民へのアンケートを実施して検証してほしい。令和4年度は休むと言っている。また開催するとすれば、今回の検証をしっかりと踏まえたうえで実施してもらえないといけないと思う」とのご意見については、今回のイベントに関わった直江津商店連合会や、協力いただいた市民団体の皆さんから直接意見をお聴きしている。また、2月21日には、直江津学びの交流館において、直江津地域の市民活動団体の方を中心に

30～40人の方から集まっていたいただき、この事業への思いや考えを伺っていることから、改めて住民へのアンケートを実施することは考えていない。令和4年度に市民が主体的となって開催を目指していることも承知しており、今後の開催に当たっては、時間をかけて地域の皆さんの意見をお聴きしながら、実施していく考えである。

3点目の「作品を現場で販売していたが、その販売金額はどこにいったのか」とのご意見については、記録集10ページに記載してある。安国寺通り特設会場（旧扇屋）の作品は、「アップサイクル」というコンセプトの下、使用されなくなったモノが作品として生まれ変わることを、あわせて経済的な循環を地域にもたらしつつ表現したものである。「地域に作品が残ってほしい」、「地域の子どもたちを応援したい」という作家の強い意向により、展示終了後、寄附を前提に希望者に作品を譲渡した。作品譲渡による寄附金122万3,500円は「直江津まちづくり活性化協議会」に寄附され、令和4年度以降、地域の子どもたちの芸術活動の支援に充てていくことと聞いている。よって、作家による寄附であることから、実行委員会の歳入としていない。

4点目の「決算書の歳出の説明が大まかである。特に、作家がこちらに来て打ち合わせをする際の宿泊費や交通費はどこに入っているのか」とのご意見については、実行委員会で配布した明細が記載されている資料を今回皆さんに配布した。そのうち、作品制作費の項目で、作品に係る材料費、作品運搬費、作家の交通費、宿泊費などすべての経費を支出している。

5点目の「イベント費のうち地域団体活動助成とは、どういった団体にどれだけ助成したか」とのご意見については、記録集16ページに記載してあるとおり、直江津まちづくり活性化協議会に100万円交付し、同協議会からまちを盛り上げる取組を実施する直江津地区の小中学校及び市民団体に5万円を上限に助成した。あわせて、同協議会において制作したミニのぼり旗が直江津の商店街各店舗に配布・設置され地域を盛り上げていた。

6点目の「事務局費の作家渉外・事業調整業務委託で330万円とあるが、どこまで業務委託したのか」とのご意見については、作家との交渉などを主な業務として4月～10月末の約7か月間委託した。具体的な内容としては、作家・作品に関する資料作成や制作に係る計画づくり、リサーチ、制作スケジュールや現場管理を実施していただき、それらに係る通信費、旅費、宿泊費など全ての経費が含まれている。

また、本日初めて提示した詳細な資料について、質問があれば回答させていただく。

あわせて、今年度の取組として、地域の方が主体となって、なおえつ うみまちアートを継続した形で地域を盛り上げようとされている。そういった動きが生まれてきたこともあり、実施して良かったと思っている。

【青山副会長】

説明に対し、質疑を求める。

【田村委員】

私は、公共交通の事を聞いた。今の回答は鉄道の事だけだが、市内からの70%の人は、自家用車なのか、バスやタクシーの利用は無かったのか、そこまで含めてアンケートをとる必要があるのではないかと。企画政策部は交通政策を受け持つ部署であれば、そういう視点が足りなかったのではないかと。

【企画政策課：志賀参事】

アンケートの項目にそういった項目を設けていなかったのは、ご指摘のとおりだと思う。事務局にバス関係の会社も入っていたものの、バスの利用が増えたかどうか明確に示せるものはなかった。実際に会場を回っているとほぼ自家用車だったと感じている。

【増田委員】

売上金は寄附金扱いにして、直江津まちづくり活性化協議会に寄附をしたという話だが、市民はこのことを知らない。このことはしっかりと市民に知らせないといけないと思う。

今回の回答で、いろいろなことが分かったが、前回の時に来ていただければ意見交換の中で伺ったが、あえて質問という形にさせていただいた。

市民に対するアンケートは考えていないという話だが、関係者だけのアンケート結果で良かったということではなく、これだけの予算をかけてやったイベントなので、結果がどうだったか市民にどれだけ理解していただけたか、検証する必要があると思う。今後のイベントの時にしっかりと活かしてほしい。

【企画政策課：志賀参事】

次回に活かしていきたいと思う。前回の協議会に出席できず申し訳なかった。

【久保田委員】

直江津地区町内会長協議会として実行委員会に参加させていただいた。実行委員会の中でも、今後は、まちの活性化を進めてほしいという要望も多く出ていた。ぜひ、形を変えてでもこういった企画ができればありがたいと思う。それから、会計監査をしたが、

ここに細かく記載されているが実際に帳簿等を見ていくと、事務処理が細かく丁寧になされていると感じた。

【企画政策課：志賀参事】

この事業は、国の交付金を活用している事業であり国の会計検査を意識している。不適切な執行をすると国に返金しなければならなくなり、結果、市民の皆さんに不利益が生じてしまうので、久保田委員からお話しがあったとおり、細かく処理をしている。

【磯田委員】

今後の希望だが、イベント費で地域活動団体活動助成ということで、直江津まちづくり活性化協議会に一括委託のようなお金の流れになっていた。実際に直江津まちづくり活性化協議会の取組としては、記録集の16ページに書いてあるが、例えば、市民の皆さんから募集、市民活動をしている人たちから、こういう事業をやりたい、こういうお金を使いたいということ、いくらお金を出しているのか、どのような審査で市民の人達にお金を配っていたのかは、ブラックボックスのような状況で見えていなかった。決算のより細かい中身はわからないが、今のお話だと1団体最大5万円の補助をしていたということもあるが、市民団体は補助金が出ることを知らなかった人たちがほとんどである。そういった市民向けに市民活動を助成するためにこういう枠があるというインフォメーションをしてもらわなければいけなかったと思うし、その仕切りについては、直江津まちづくり活性化協議会に一括でお任せではなく、企画政策課、或いは、実行委員会が道筋を作ってあげるべきだったのではないかと思っている。

【企画政策課：志賀参事】

うみまちアートを実施する際に磯田委員から話があったように、地域の皆さんからどのように関わっていただければ良いかが課題であったが地域の皆さんの取組は、自由に考えていただき、一緒にやっというスタンスでスタートした。事業を進めていく中で、地域の皆さんからこういう活動をしたい、応援してほしいという要望・意見が強かったので、直江津まちづくり活性化協議会を通じて助成するという形でやらせていただいたところである。次回、実施する時はご意見を踏まえて進めさせていただきたいと思う。

【青山副会長】

他に質疑を求めるがなし。

— 企画政策課 退室 —

次に、その他について事務局へ説明を求める。

【中村センター長】

1点目、「地域自治推進プロジェクト及び令和4年度の地域協議会の取組について」の資料1「地域自治推進プロジェクト」に基づき説明

なお、資料2以降は、地域協議会において令和4年度に取り組んでいただきたいこととなっている。本日配布の資料であり、改めて別の日に時間を設けて説明させていただきたいと思うので、あらかじめ目を通して頂きたいと思っている。内容について、資料だけでは言葉が足りない部分もあるので、次回の説明の後で質問を受けさせていただきたい。

2点目、令和4年3月15日の第16回の本協議会において、産業政策課から報告していた「三の輪台いこいの広場のプロポーザルによる利活用事業者募集」の結果について、事業者からの提案がなかったことを報告する。三の輪台いこいの広場については、引き続き、市が施設管理を行っていく。また、今回の件を踏まえて、常時、サウンディング型市場調査を行い、提案があった際は、公募による利活用を検討していくとのことである。

次に、本日配布した令和3年度地域活動支援事業の事業経過概要書の写しは例年配布しているものである。参考にさせていただき後ほど確認願いたい。

また、上越教育大学の院生によるアンケート調査結果について、昨年8月にご協力いただいたアンケートの結果報告を配布した。79.8%の皆さんから回収させていただいた。この場を借りてお礼を申し上げてほしいとの依頼があった。

次回協議会は、5月17日（火）午後6時30分からを予定している。内容は、提案団体からのプレゼンテーション、プレゼンテーション後に質問の協議をさせていただく。現在の提案状況は、提案書として受け付けたものが3件、相談として7件、他に3件で併せて13件ほどになるかと思う。

【青山副会長】

説明に対し質疑を求めるがなし。

【中村センター長】

もう、2点連絡をさせていただく。

1点目として、直江津区地域協議会は、第3火曜日を定例の開催日としているが、第3火曜日では、別の会議と重なることとなり参加できないと委員から申し入れがあった。

すでに1名が参加できない旨の報告があるため、残り15名となり、この委員が抜けると14名となる。事務局としては、多くの委員から出席いただいたほうがよりよい協議会の運営になるのではないかと考えている。このままでいくのか、定例の開催日を変更するのか検討いただきたい。

【青山副会長】

第2、第4の火曜日は可能なのか。

【中村センター長】

第3火曜日が都合悪いとの事なので、可能かと思う。

【青山副会長】

第2か第4の火曜日にしようと思うがどうか。

(第2火曜日でよいという声)

第2火曜日とする。

【中村センター長】

2点目として、今ほど審査スケジュールを配布したが、提案を13件と見込んでいる。昨年とほぼ同じくらい時間が必要かと思う。プレゼンテーションと質問事項の協議を1日で行うか、プレゼンテーションと質問事項の協議の日を分けて行うか協議願いたい。

【青山副会長】

それは、終了時間が遅くなるということか。そうであれば開催を30分早めて6時から始めてはどうか。

(賛同の声)

【中村センター長】

・次回協議会：5月17日（火）午後6時～

【青山副会長】

・会議の閉会を宣言

9 問い合わせ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。